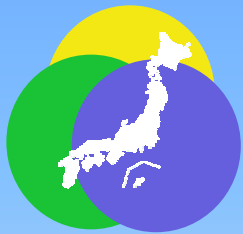


NPO法人
持続可能な社会をつくる
元気ネット



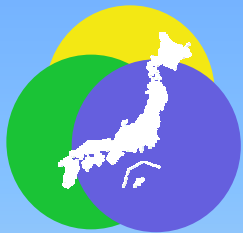
2006年
元気大賞

周囲約23km、人口約5,800人の観光の島で、美しい私たちの与論島を後世に残すため、約600人のメンバー一人ひとりが「勿体ない心」と「私一人だけでも」という意識を念頭に活動を展開している。昭和25年に発足し、「花いっぱい運動」「使用済み油のリサイクル」「家庭排水による水質汚染防止」「マイバック運動」等行政と協働による活動には、長い歴史がある。



プロジェクト名：楽しみながらエコライフ
◇与論町地域女性団体連絡協議会（鹿児島県与論町）

市民が創る環境のまち“元気大賞”事業



2006年
奨励賞

◇あだたら環境農業研究会(福島県二本松市)

プロジェクト名: あだたら野菜クルプロジェクト(岳温泉を中心とした地域循環型農業)



食品残さ投入の様子



市内の小学校 堆肥を花壇に使用



有機大根を使った
「一句一品」



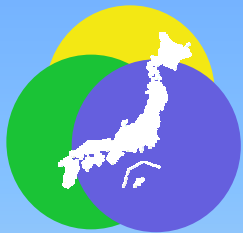
有機農野菜研修会



農家・調理師研修会
テーマ「郷土料理とお祭り料理」

平成10年6月に「岳温泉旅館から出た食品残さ(500kg/日)」を國分農場(養牛)で堆肥化し、二本松有機農業研究会で有機野菜を栽培。再び旅館に納入し、「一句一品」料理として出す、地域内環境リサイクル活動を開始。旅館や地元農家、流通業、ゴルフ場、オートキャンプ場など、異業種の連携で、食品残さの循環、地元小中学校への堆肥の寄付、視察者受け入れ、生産現場研修会、講演活動、その他サポートなど、循環型農業形成のための様々な活動を行い地域内循環の意識が非常に高まった。

市民が創る環境のまち“元気大賞”事業



2006年
特別賞

◇京都市ごみ減量推進会議(京都府京都市)

プロジェクト名：京都市における市民、事業所、行政の
パートナーシップによるごみ減量への取り組み



京都方式のリユースマーク
表示びんの発表会



リユースマークの貼ら
れたリユースびん

片山右京氏がパリダカ
で燃料として使用

- ① 市民、事業者をやる気にさせる啓発イベントや企業向け実践講座の実施。
- ② 学校給食の牛乳パックからトレットペーパーを再生、醸造メーカーとリユースびん流通システム（京都モデル）の事業化。
- ③ ごみ収集車、市バスに使用済み天ぷら油「みやこ・めぐるオイル」を使用。回収した廃食油を燃料に再生、市民生活に直結したところで利用するなど、市民の活動成果を具体的な形で示し、循環の輪を完結させている。

市民が創る環境のまち“元気大賞”事業

地域事例「市民がつくる環境のまち」元気大賞2003

岩手県葛巻町 「日本一の新エネルギーの里づくり」

- 実施プロジェクト：
「天と地と人の恵みを活かして」
- 1999年「新エネルギービジョン」策定
酪農と林業の町（ミルクとワイン）の新たな挑戦
天のめぐみ～風、太陽光、熱
地のめぐみ～畜産糞尿、森林（バイオマス）、水
人のめぐみ～これまでの、これからの人と共に
- 地域資源徹底活用で、エネルギー自給100%へ
町民・事業者・行政の協働で魅力あるまちに